JMFI主催の新生ASLF 堂々の発進!!

記念すべき新生アジア・シームレ ス物流フォーラムは、初日の5月18 日、TRC会場の1階広場で催され た開会式で幕を開けた。

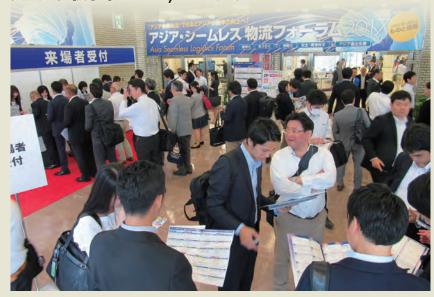
初めに主催者を代表して(一社)日 本マテリアルフロー研究センター (IMFI) 会長の大庭靖雄氏が立ち. 「本フォーラムは我が国を含むアジ アにおいて、国境を越えた活発なも のの動きをシームレス化することが 発展の礎であることを信念としてス タートし、6回目の開催となる。流通 研究社の幅広いネットワークをさら に発展させ、今回は24セッション・ 70本近いセミナーを用意し、大変多 様で興味深い最先端のテーマを揃え た。企業展示も100以上の企業・団 体に及ぶ。参加者の皆様にはここで 物流改善へのヒントを手に入れてい ただくと共に、さらに研究を深める ためには、私どもJMFIの研究活動 に参加いただきたい。本フォーラム での情報発信と、研究活動を両輪と して、行政とも連携しながら、我が 国ロジスティクスの改善を進めて行 きたい」と挨拶。

来賓としては国土交通省物流審議 官の重田雅史氏, 同省総合政策局国 際物流課長の町田倫代氏,経済産業 省商務流通保安グループ物流企画室 長の正田聡氏が列席したが、代表し て国交省の重田雅史審議官が次に登 一般社団法人JMFIの主催で第2のスタート!

アジア・シームレス が流フォーラム2017

Asia Seamless Logistics Forum / ASLF

盛況のうちに終了,2日間の来場者, 過去最高の10.765人に



去る5月18日・19日の2日間, 東京都大田区の東京流通センター(TRC)で, (一社)日本マテリアルフロー研究センター(JMFI)主催, 流通研究社/本誌の 企画・運営という新体制で「アジア・シームレス物流フォーラム2017」が開催された。 初の1万人超えを果たしたフォーラムの様子を、速報ダイジェスト版でお届けする。 (編集部)

壇し、「物流の未来を占うには、日本 の産業界がこれまでどう変わってき たのか、過去を振り返る視点が求め られる。1つは産業のグローバル化 の進展で、四半世紀前には我が国主

要メーカーの海外生産は僅か5%だ ったのに対し、今では25%を超え、 しかもその対象は北米や欧州でなく アジア中心となった。そのアジア市 場で物流が大活躍しているのが現代 だ。もう1つはシステム化の波とい う視点。エコロジー問題も含め、小 口・多頻度、納期厳守のニーズに応 えるサプライチェーンの構築が求め

> られている。それでは未来はどうな るのか? キーワードは〈生産性革命〉 だと認識している。労働人口減少の 問題は避けて通れない我が国におい て、どう効率化したビジネスモデル

> を創出してアジアに貢献できるか



開会式の様子, 壇上はJMFI大庭会長







大庭会長

松浦共同議長

が、明るい未来へのカギとなる。加 えてインダストリー4.0に代表され る自動化の流れにも注視する必要が ある。このフォーラムがそうした諸 課題のヒントを提示し、世界の物流 の飛躍発展につながることを祈って いる」と祝辞を述べた。

最後に、フォーラム企画・実行委 員会共同議長を務める松浦学ニトリ ホールディングス上席執行役員が登 壇。「昨今、物流の問題が歴史上ない ほど取りざたされているが、多くは 労働環境など負の面のフォーカスが 多い。だが実際の現場では前を向い たチャレンジも多く、我々はこの部 分にフォーカスし、業界全体を発展 させねばならない。確かに課題は多 いが、その真っ只中にいる我々がこ れをむしろチャンスと捉え、生産性 の超改革に取り組んで行きたい。幸 い今回のフォーラムにはそれに相応 しい企業、講師の皆さんが集結して くれた。来場の皆様には是非ともじ っくりとご覧いただき、アジア物流 のシームレス化へのヒントを掴んで いただきたい」とスピーチ。さらに続 けて「アジア・シームレス物流フォ ーラム2017を開催いたします!!」との 力強い開会宣言で、ASLF2017は高 らかにスタートとなった。

今回のフォーラムは,「アジア善 隣物流で日本とアジアの競争力向上 へ」「標準化・見える化で強靭化、安 全・環境保全+アジア進出支援」の コンセプトを引き継ぎつつ。国土交 通省と経済産業省から初の後援を得 て開催された。1,2階の2フロア構 成を踏襲し、物流・3PL・国際フォワ ーダー・港湾系, IT/CTソリューシ ョンコンサルティング、マテハン系 等々,96社・10団体/179小間の出 展規模で充実したブースを構成。

セミナーも 4 会場で全24セッショ ンという圧倒的なセミナープログラ ムを展開。熱心な聴講者を迎え、貴 重なセッションが繰り広げられた。 主要コンテンツは次号から順次記事 化していく予定だ。

初日のプログラム終了後には, 開 催記念レセプションが別棟で賑やか に開催された。初めに企画・実行委 員会の共同議長である井口博実日本 通運㈱事業開発部長 お客様相談セ ンター所長が登壇、「昨年のフォーラ ムの時期は米国大統領選の前で TPP中心の話題で持ちきりだった が、状況は様変わりしている。にも かかわらず新生JMFIと流通研究社 の独自の企画力の賜物で魅力的なセ ッションが実現し、昨年を上回る初 日の動員を実現したのは非常に喜ば しい。アジア・シームレスを標榜す る当フォーラムだが、現場の最前線 に目をやれば、輻輳する生産システ





セミナー会場・熱いパネルディスカッションの様子

ムなどムダや課題も数多く残されている。各企業同士,前提は競争にあるが,一方で可能な限りの協調を模索し,新たなサプライチェーンを築くための場として,今後も本フォーラムが末永く続くことを祈念している」とスピーチ。

続いて、在東京タイ王国大使館工業部公使参事官のバウォン・サッタヤウティポン氏が登壇し「本フォーラムには3回目の参加になるが、年々規模の拡大を実感している。今年はセミナーの講師も勤めさせていただいた。タイ政府は東部経済回廊政策を掲げ、東部3県を経済特区として、インフラ、工業、ライフスタイルの再開発を進めており、製造業の拡充、観光事業の構築にも役立てる構想だ。それにはロボットはじめ







バウォン公使参事官



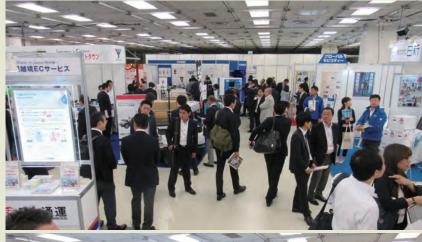
勝尾室長補佐

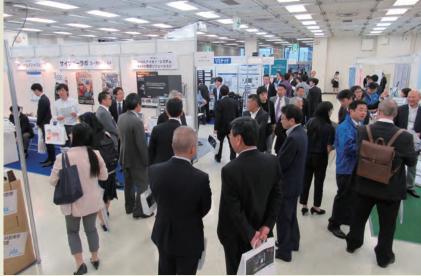
先端産業の高度化、安全で確かな物流システムの確立が必要不可欠。今後も様々な分野での交流を通じて両国の関係が深まることを希望する」との祝辞の後に、「日本とタイとアジアの今後の発展を祈念して、乾杯!」の発声でレセプションはスタート、にぎやかな歓談が繰り広げられた。

宴たけなわの会場で中締めに登壇 したのは、経済産業省物流企画室室 長補佐の勝尾嘉仁氏。「成功裏に1 日目を終えられ喜ばしい。明日は私 もセッションに立たせていただくが, 日本の産業力活性化のためにはアジ ア諸国の力が必要で,生産現場・市 場としての影響力は極めて大きい。 中でもASEANの高い成長率はポイ ントで,今後は一層国境の垣根が下 がり,水平的分業も盛んになる。そ うした状況下で各国といかにWIN-WINの関係を構築できるかが大事 だ」と述べたあと,「フォーラムが成 功裏に終わることを祈念」して一本 締めで中締めを終えた。

*

今回のフォーラムの全参加者は2日間合計で1万765人と、初の1万人の大台突破を達成した。フォーラム事務局では、次回の開催日程を「2018年5月17日承・18日金」と決定(会場は同じくTRC)、早期に出展募集準備を整えると共に、一層のプログラム拡充を構想し、早くも走り出している。詳細お問い合わせは下記事務局まで。





来場者でにぎわう展示コーナー

アジア・シームレス物流 フォーラム2018

[日程] 2018年5月17日帝, 18日金 [会場] 東京流通センター(予定) (TRC. 東京都大田区平和島6-1-1)

アジア・シームレス物流フォーラム事務局

(株)流诵研究社

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 [TEL] 03-3988-2661 [FAX] 03-3980-6588 [URL] http://www.mf-p.jp